いたる通信 45 真夏号

ITARU CENTER

目黒本町福祉工房　２枚のＴシャツ

目次 contents

01 巻頭言
02 あけぼの作業所 阿佐谷福祉工房
03 クローバーサポートウイズ
04 決算報告書（一般会計）
05 決算報告書（就労会計）
06 目黒本町福祉工房

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費　１口５千円（何口でも可）
郵便振り込み　００１０　７　１２８９２
（問）３３９２-７３４６　事務局　蓬田まで

これが目黒の歩む道（団長日記　vol. 3）

社会福祉法人いたるセンター
目黒区立目黒本町福祉工房長　村瀬（むらせ）　史貢（ふみつぐ）

古い話で恐縮だが、半世紀前の小学高学年の時の校内映画観賞会で見た十戒のワンシーンを今でも時おり思い出すことがある。荒れ狂う海が割れ一筋の道が拓けるという場面だ。史実は別にして、私の中では道に迷った人に進むべき道を指し示す示唆に富んだ内容というストーリーに完全にすり変わっている。そのことを前提に本町が置かれている状況を重ね合わせるとどうなるのだろう。

目黒本町福祉工房は上目黒福祉工房と中央町福祉工房の２つの実績のある施設が一つに統合され、多機能型事業所として平成23年４月に現在の地で生まれ変わった。一年間区直営の施設として運営され、平成24年４月から指定管理による運営となった。運営を引継ぐにあたって、６か月の期間を頂戴した。やらなければならないことは山積していた。ただ限られた時間の中でできることは限られており、利用者、家族の安心に繋がる取組みを中心に据え引継ぎに当たった。

そして、２か月が過ぎた。長年慣れ親しんだスタッフがある日を境に一人も居なくなる状況、その不安の程は計り知れないものだったと思う。まさにそれは荒れ狂う海を前に途方に暮れる人のようではないか。私たちはモーゼにはなれないから、そう簡単に道を作ることはできないし、道ができてもおそらく、でこぼこした不器用な道なんだろうと思う。私は少しへそ曲がりなので、これから進む道には曲がり角がいくつもあって、その度に一時停止をして左右の安全を確認し、カーブミラーに映る歪曲した未来に夢を膨らませるようなそんな歩み方をしたいと思っている。

いたるセンターがこれまで杉並の地域で実践してきたこと。それは障害のある方とそのご家族が住み慣れた地域の中で生涯安心して生活するための環境を整えることにあった。そのことを目黒の地域においても実現していきたい。ただ、そこに向かう時、舗装された一本道をわき目も振らず一心不乱に進むようなやり方はしてはいけないと思っている。丁寧に周囲の声に耳を傾け、時々の状況を確認しながら歩んでいきたい。

目黒本町福祉工房紹介

目黒本町福祉工房には、生活介護事業と就労継続支援B型事業の2つの部門があります。生活介護には、3つのグループがあって、アクティ・ひまわり・つばさに分かれています。今回は、いたるセンターで初めての身体障害者事業部つばさグループの紹介を中心にお伝えします。

つばさグループ紹介

文・藤井正樹（ご利用者様）

僕たちつばさグループは、8人でみんな身体が不自由なのですが、一人ひとりの出来ることがあって、良いグループです。10代から60代まで年齢の差はあるのですが、みんなで仲良く過ごしています。作業としては、いろいろなのがあるけれどメインとして、広報班と新作業班があります。僕たちはそのふたつの班でファイトの気持ちで頑張っています。

広報班は、僕もふくめ「本当に重い障がい者たち」がMIX＋α（目黒本町福祉工房広報紙）をつくっているのでけっこう大変です。今年の4月から、広報班が1号ずつ担当を決めて職員にも手伝ってもらいながら、ぼくたちがMIX＋αの企画や構成をやろうと話し合って、広報班のみんながやる気満々です。作業以外では、プロデュースと言う利用者が名前を決めたのもしています。それは、それぞれが自分で考えてやりたいと思ったことを実践していくプログラムです。例えば僕は、ブログなどをしているのです。

また、つばさグループには自治会というのがあります。自治会で、みんなのやることを1から10まで自分たちで決めていて、議題をつばさグループのみんなで話し合ったり、決めて実行しています。一週間に何回か「ゆとり」という時間もあります。1時間15分くらいなのですが、利用者と職員が1対1になって自分のやりたいことや、買い物、街をぶらぶらして喫茶店に入ったり、その他いろいろなことをしています。利用者たちは、ゆとりの時間を本当に楽しみだと思っているのです。その他にも、個人外出が1年間に2回あって自分で目的や場所や日にちを考えます。食事のことや行き帰りのことなどを決める計画を立てて、自分の行きたいところに外出をすることが出来るのです。あとは毎週金曜日に翌週の月曜日から金曜日までの一週間の予定を利用者たちが自分で伝えたりもしています。そんなつばさグループのことを、みなさんに知ってもらいたいために、ほんの一部なのですが紹介しました。今年から目黒本町福祉工房の新生活が始まりました。みなさんに是非遊びに来てほしいと思っています。

つばさグループ全体外出、左端が筆者。羽田空港にて

『2枚のTシャツ』

平成24年3月某日、4階に何やら見慣れぬ機械が設置された。遊園地のアトラクションのような、軟体動物のような…。今回、目黒本町福祉工房に導入されたシルクスクリーン（Tシャツ印刷）機材は、印刷版が4本足のように付いている。就労継続支援B型事業の利用者（以下メンバー）は、初めて見る機械にわくわくドキドキ！興味津々…そんな雰囲気のなか、2枚のTシャツが作られた。

1枚目は、前工房職員を送る会の記念品として作成された。いままでも、そしてこれからもこころや気持ちがつながっていくことをイメージして、「Feeling」と「Link」を合わせた～FeeLink～という造語をつくり、四葉のクローバーのデザインとなった。「気持ち」を「形」にしたこのデザインは大変好評となり、メンバーやご家族からもたくさんの注文をいただいた。

2枚目は、メンバーが大好きなプロ野球チームをモチーフにして描いたもので、とてもインパクトがある。「自分達が描いたものがこうやってTシャツになるんだ！」と皆びっくり！！最近では空き時間を使ってイラストを描くメンバーが少しずつ増えてきた。

これからシルクスクリーン印刷が歩んでいく道のり（方向性）をこの2枚のTシャツが指し示している気がした。

シルク機材の前で！

ご寄付のお礼

阿佐谷福祉工房およびクローバーの開所にともない、多くの皆様からご寄付を頂戴いたしました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後とも皆様のご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

～ご寄付いただきました皆様～
天沼熊野神社様、
天沼一丁目町会様、
社会福祉法人ポワ・すみれ福祉会様（理事長：石井キヨシ様）
小林会計事務所・小林宏樹様、
まごころ工房様、
あけぼの保護者会様、
佐藤良様、杉原千鶴子様、
白土一郎様、秋本タカ様、
佐藤桂介様、神庭重義様、
門馬正和様、染谷武男様、
関嶋淳二様、中野雅義様、
長門玲子様、住友一郎様、
久保恒雄様、Y様、S様、H様
（順不同）

いたる広報委員
発行責任者＝谷山　哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167－0032
東京都杉並区天沼1－15－18
TEL：03-3392-7346
FAX：03-3391-8039
Eメール：info@itarucenter.com
HP：http://www.itarucenter.com/
発行日／平成24年7月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。いたる広報委員まで。

あけぼの作業所
室内清掃で工賃アップ

ワーキンググループリーダー　斉藤（さいとう）　直人（なおと）

今年より株式会社ミガック様のコーチングを受けて、室内清掃を本格実施していきます。

現在、西東京市のグループホーム住まいるなどから清掃依頼を受けて、利用者が退寮後の風呂、トイレ、パントリーや床清掃を行なっています。基本的な清掃の手順、劇薬の取り扱いをはじめ、清掃のコツをプロの方に実演していただきながら学んでいます。

株式会社ミガックの社長さんをはじめ、スタッフの多くの方が障害者施設での経験があり、メンバーへの指導も的確に行なってもらえているので、助かっています。

現在は、退寮後の無人の部屋を清掃していますが、清掃のスキルアップや職業マナーを身につけて高齢者や障害者の単身世帯等のみまもりを兼ねた室内清掃も視野に入れて業務拡大を考えています。

今後増える需要に追いつけるよう事業拡大を行ないます。

ワーキンググループは、月5万の工賃目標達成に向けてスタッフ、メンバー一丸となってがんばっています。

丁寧な仕事で喜ばれています！

阿佐谷福祉工房
自主生産品で工賃アップ

菓子工房グループリーダー　藤巻（ふじまき）　幸子（さちこ）

新屋舎が完成し菓子工房の設備が整うまで約2ヵ月間かかりましたが、やっと菓子工房が始動です！

新しいパン焼き窯の火入れ式を行ない、菓子工房メンバーとスタッフで無事故の運営を祈願しました。

新しい設備でクッキーとラスクを試作。今までのオーブンとは性能も異なり温度の設定など苦戦しながら試作を重ね新製品の生産がスタート！

今年度は製パン事業を開始する年。

目標はいたるセンターの通所施設の給食やグループホーム、ケアホームの朝食のパンを作る事です！

パン工房Puku Pukuと同じ！

菓子工房では新しいユニフォームが6月末に出来る予定です。

新しい設備というチャンスを頂き、新しく生まれ変わる阿佐谷福祉工房に是非ご期待下さい！

クッキーの試作の様子

いたる相談室　いたる相談室室長　春山（はるやま）　陽子（ようこ）
地域のネットワーク構築に向けて ～TERAKOYAの取組み～

いたる相談室では、当法人のグループホーム・ケアホームの若手の世話人と一緒に、昨年度、地域の中での連携が必須の関係事業所の役割や身体のことなどを理解するための学習会、施設見学会などを行なってきました。今年度も引き続き、実施する予定です。

昨年度の内容は、下記のとおりです。

23年度　～TERAKOYAの取組み～

月	活動内容	講師・見学会など
4月	学習会（福祉事務所の機能と役割）	杉並福祉事務所 高円寺事務所
5月	学習会（受給者証発行までの手続き等）	杉並区施策課自立給付係
6月	学習会（安心サポートの支援について）	杉並区社会福祉協議会 あんしんサポート専門員
7月	各グループホーム等情報交換	世話人
8月	グループホーム見学	ブルース見学・懇食会
9月	生活に役立つアロマ講座	外部講師
10月	近隣グループホーム見学	社会福祉法人武蔵野 RENGA せきまえハウス
12月	地域の資源の見学	マイルドハート高円寺
1月	学習会（個別支援会議の開催について）	世話人・相談室
2月	利用者主体の支援について	世話人・相談室
3月	学習会（保健センターの役割・更年期障害について）	杉並区保健師

～わたしたちの作品～

開催日：7月21日（土）
22日（日）
時　間：10時～16時
いたる相談室では、在宅の方や日中活動先などのサービスにつながる支援をしています。
いたる相談室で、利用者の皆様がこつこつと作った手作りの作品展を開催します。
皆様のご来場をお待ちしています。
【いたる相談室】
丸の内線・南阿佐ケ谷駅
下車徒歩1分
電話：03-3863-2113

新技術導入で工賃アップを！
Tグループ統括リーダー　松葉（まつば）　菜都（なつ）

6月7日（木）より理想科学様の製品、デジタルスクリーン製版機「ゴッコプロ100」を導入いたしました。今まで30分程要していた製版作業が、一つで製版でき、なんと約2分に短縮できる夢のような機械です。これで、今まで以上に、「お急ぎ印刷」を希望するお客様にも対応させて頂くことができます。

Tシャツ、エコバック他、シルクスクリーン印刷のご注文は阿佐谷福祉工房に！

ゴッコプロ100でお急ぎ印刷対応！

シルクスクリーン印刷のご用命は
print@itarucenter.com

クローバー
機械浴を導入して

クローバーは様々な障害をお持ちの方が利用されるので、新屋舎では2つの浴槽をご用意しました。

1つはユニットバス、もう1つは「酒井医療のロベリア」という機械浴槽です。

以前は家庭用浴槽が1つだった為、身体に障害をお持ちの方が宿泊された時には、スタッフ2名の人力で入浴サービスを提供するか、清拭にさせていただいていました。

導入した機械浴槽は、座位が保持できない方にもゆったりとした仰臥位で入浴していただける大型の浴槽で、安全性が高い最新の装置を備えています。

機械浴槽を導入したことで解消された点は、主に次の4点です。

① 人力のみの介助で生じる危険
② 人力の移乗で発生する要介護者の身体的苦痛
③ ①による介助者・要介護者双方の不安
④ スタッフの腰痛等を含む体力の負担

今後もご利用者様が安心してご利用いただくために、一層の努力をしていきたいと思います。

導入した機械浴

パン工房PUKUPUKU
新商品紹介

新商品で特に人気があるのはバジルチキンのサンドイッチ！全粒粉食パンの間に甘辛く味付けした柔らかいチキンが入ってボリュームも満点！焼き上がり時間までお待ちいただくお客様もいらっしゃるほどの人気です。

バジルチキンサンド
200円（税込）

http://www.itarucenter.com/pg792.html

さん まるしぇ
1周年を迎えて

昨年6月にオープンし、1周年を迎えました。目黒区内にある17の障がい福祉施設から自主生産品であるパン、お弁当、焼き菓子などの食品と革小物、ビーズ商品、マフラー、バッグなどの織物、紙製品などの雑貨を集めた店舗はこの1年で大きく成長しました。まず挙げられるのは、店舗スタッフと各施設の信頼関係が深まり、店舗で得たお客様の声を商品に反映することが出来るようになったり、店舗の販促（チラシのポスティング等）を施設の利用者の皆さんと行えるようになったりと地域の福祉施設に根差した活動が出来るようになりました。今後は毎月行っている各施設とのフェアやライブ活動を通じ、更に活気ある「目黒のおしゃれな福祉ショップ」として展開してまいります。

http://www.itarucenter.com/pg847.html

豊富な品揃えも魅力の一つに！

サポートウイズ
介護保険サービス

現在までサポートウイズは障害者支援とともに介護保険の「訪問介護事業所」として事業を行ってきましたが、平成24年10月～「居宅介護支援事業所」を併設するよう準備を進めてきております。

10月からサポートウイズの「介護支援専門員（ケアマネージャー）」として1名人員確保ができています。「いたる」という法人は色々な資格を持たれている方が多く、幸い法人内で人員確保することができました。

第1次ベビーブームの方々が65歳を迎え介護保険の適用時期に入ってきました。今後も増え続けるであろう高齢者の方々を支えていけるような「居宅支援事業所」「居宅訪問介護事業所」でありたいと思っています。

◆居宅支援事業所◆

介護支援専門員（ケアマネージャー）が所属し、行政（区）、包括支援センター、医療機関、福祉用具、住宅改修、家族、介護事業所等と連携を図りながら高齢者を支えていき、その人らしく生活できるようプランを作成し、訪問介護事業所等と連携していく事業所です。

◆訪問介護事業所◆

居宅支援事業所から依頼のあった利用者様をサービス担当者会議を経て、介護支援専門員が作成したプランに基づきヘルパーを派遣する事業所です。

障害者支援サービス

移動支援サービスでは、約2カ月に1回サポートウイズで契約されている利用者様がヘルパーと1対1でいくつかのグループになり外出しています。障害を持たれていても健常者と同じように多くの人たちとふれあい、色々な経験や発見をして将来的には誰とでも向き合うことができるようになって頂きたいとの願いからです。

5月12日には、往路「湘南新宿ライン」で鎌倉の鶴岡八幡宮。鎌倉より「江ノ電」で長谷の大仏を見学し、復路は藤沢より小田急線、中央線に乗り帰ってきました。

思い出作りのお手伝いができたかな？と一同思っています。